

所属	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 ウィメンズヘルス分野	修了年度	2020年度
氏名	武田 智晴	指導教員 (主査)	小泉 仁子

論文題目	乳児と母親のふれあいや遊びと母親の育児ストレスとの関連
------	-----------------------------

本文概要

【目的】本研究では、乳児を育てる母親を対象として、乳児と母親のふれあいや遊びの頻度・思いと育児ストレスとの関連を検討し、乳児を育てる母親の育児ストレスの軽減について示唆を得ることを目的とした。

【方法】第1子の乳児(単胎児)をもつ母親164名を対象に、無記名の自記式質問紙調査を実施した。調査内容は、母親の背景、乳児と母親のふれあいや遊びの頻度と思い、育児ストレスインデックスショートフォーム(日本語版PSI-SF)である。記述統計、乳児と母親のふれあいや遊びと育児ストレス(PSI-SF)との関連、母親の背景による比較を行った。

【結果】106名を解析対象とした(回収率は64.6%)。乳児と母親のふれあいや遊びの「頻度」と「母親自身のストレス得点」($\rho = -.360$)は有意な負の相関が認められた。また、母親の思いの「ふれあいや遊びが楽しい」では、「子ども要因ストレス得点」($\rho = -.265$)、「母親自身のストレス得点」($\rho = -.377$)で、各々有意な負の相関を認め、「ふれあいや遊びに不安がある」では「子ども要因ストレス得点」($\rho = .342$)、「母親自身のストレス得点」($\rho = .457$)で各々有意な正の相関を認めた。母親の背景要因が乳児と母親のふれあいや遊びの「頻度」に与える影響では、「育児の経済的負担感」($p = 0.039$)、「億劫と感じる」($p = 0.034$)、「夜泣き」($p = 0.005$)、「泣き止まない」($p = 0.003$)、「はいはいをしない」($p = 0.000$)としている母親群はふれあいや遊びの「頻度」が低く、相談相手($p = 0.014$)や家事育児のサポート($p = 0.026$)として「夫の存在」がある母親群は高かった。

【考察】乳児と母親のふれあいや遊びの「頻度」「思い」と育児ストレスに相関関係を認められた。乳児を育てる母親の育児支援において、ふれあいや遊びの頻度が増え、母親自身も楽しめるように支援することで育児ストレスが軽減する可能性がある。また、乳児と母親のふれあいや遊びの場면을観察しアセスメントすることは、育児ストレスのアセスメントにつながる可能性がある。乳児と母親のふれあいや遊びの「頻度」に影響する背景要因では、「経済的負担感」や「母親の体調不良」、「子どもの泣き」、「はいはいをしない」が「頻度」を低くさせ、「夫のサポート」が「頻度」を高める要因であることが示された。生活背景や子どもの成長発達は様々であり、個別性を踏まえた看護が重要である。

【結論】乳児と母親のふれあいや遊びの頻度・思いと育児ストレスとの関連が認められた。乳児と母親のふれあいや遊びの場면을観察しアセスメントすることは、育児ストレスのアセスメントにつながる可能性がある。乳児を育てる母親の育児ストレスは、ふれあいや遊びの頻度や思いと関連しており、育児に自信がもてない母親自身に対する支援と個別性を踏まえた看護が求められることが示唆された。

【キーワード】第1子出産の母親、乳児、育児ストレス、ふれあい、遊び